

余等質性1の
中心アファイン
ン曲面と
簡約化された
中心アファイン
ン曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
ン曲面

簡約化された
中心アファイン
ン曲線

余等質性1の中心アファイン曲面と 簡約化された中心アファイン曲線

藤岡敦

関西大学システム理工学部数学科

2026年3月6日(金)

名古屋工業大学, 名工大幾何学小研究集会 2026
(古畑仁氏(北海道大学)との共同研究)

内容

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

- ① 序
- ② アファイン超曲面
- ③ 余等質性 1 の中心アファイン曲面
- ④ 簡約化された中心アファイン曲線

背景と主結果

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

- 余等質性1の中心アファイン曲面
 - 「標準形」で表すことができる
 - 「標準母線」を考えることができる
 - 固定された行列を含む常微分方程式の解となる
 - 「簡約化された中心アファイン曲線」とみなす
- 簡約化された中心アファイン曲線
 - 曲率は球面に値をとる
 - 中心アファイン変換群よりも小さい対称性をもつ
 - 曲率が大半に値をとるものは等質中心アファイン超曲面に含まれる

アファイン超曲面の定義と Gauss-Weingarten の公式

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

$f: M^n \rightarrow \mathbb{R}^{n+1}$: 超曲面 (はめ込み)

ξ : f に沿うベクトル場

(f, ξ) または f : アファイン超曲面

\Updownarrow def.

$$\forall x \in M, \xi(x) \in f_* T_x M$$

ξ を横断的ベクトル場という

f をアファイン超曲面とする

D : \mathbb{R}^{n+1} の標準平坦接続

\implies Gauss-Weingarten の公式:

$$\begin{cases} D_X f_* Y = f_* \nabla_X Y + h(X, Y) \xi \\ D_X \xi = -f_* S X + \tau(X) \xi \end{cases} \quad (X, Y \in \mathfrak{X}(M))$$

$\left(\begin{array}{l} \nabla: \text{誘導接続, } h: \text{アファイン基本形式} \\ S: \text{アファイン型作用素, } \tau: \text{横断的接続形式} \end{array} \right)$

非退化性, 定値性, 不定値性

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

定義

$f : M^n \rightarrow \mathbb{R}^{n+1}$: アファイン超曲面

h : アファイン基本形式

f : 非退化 (resp. 定値, 不定値)

\Updownarrow def.

h : 非退化 (resp. 定値, 不定値)

命題

上の定義は横断的ベクトル場 ξ の選び方に依存しない

証明

$\bar{\xi} := \lambda \xi + (\text{接成分}) \quad (\lambda : M \rightarrow \mathbb{R} \setminus \{0\}) \implies \lambda \bar{h} = h$

非退化アファイン曲面の場合

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

命題

$f : M^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$: 非退化アファイン曲面

K : Euclid Gauss 曲率

f : 定値 (resp. 不定値) $\iff K > 0$ (resp. $K < 0$)

証明

(x_1, x_2) : 局所座標系

Gauss の公式は

$$f_{x_i x_j} = \Gamma_{ij}^1 f_{x_1} + \Gamma_{ij}^2 f_{x_2} + h(\partial_{x_i}, \partial_{x_j})\xi \quad (i = 1, 2)$$

n : 単位法ベクトル場

上の式と n の内積を取ると

$$\langle f_{x_i x_j}, n \rangle = h(\partial_{x_i}, \partial_{x_j})\langle \xi, n \rangle$$

Blaschke 超曲面

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

$f : M^n \rightarrow \mathbb{R}^{n+1}$: 非退化アファイン超曲面

ξ : 横断的ベクトル場

標準平坦接続 D に関して平行な \mathbb{R}^{n+1} の体積要素 ω を固定

$\rightsquigarrow \theta$: (f, ξ) の誘導する体積要素

$$\theta(X_1, \dots, X_n) = \omega(f_* X_1, \dots, f_* X_n, \xi) \quad (X_1, \dots, X_n \in \mathfrak{X}(M))$$

アファイン基本形式 h は非退化

$\rightsquigarrow \omega_h$: h に関する体積要素

命題

$\tau = 0$ かつ $\theta = \omega_h$ となる横断的ベクトル場 ξ が符号を除いて一意的に存在

上のような横断的ベクトル場を Blaschke 法ベクトル場という
このとき f を Blaschke 超曲面という
また h を Blaschke 計量という

中心アファイン超曲面

余等質性1の
中心アファイン
超曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容
序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

定義

$f: M^n \rightarrow \mathbb{R}^{n+1}$: 超曲面

$$\xi := - \left(\sum_{i=1}^{n+1} x_i \frac{\partial}{\partial x_i} \right) \Big|_f$$

f : 中心アファイン超曲面 $\iff (f, \xi)$: アファイン超曲面
def.

$f: M^n \rightarrow \mathbb{R}^{n+1}$: 非退化中心アファイン超曲面

∇ : 誘導接続

h : アファイン基本形式 (中心アファイン計量)

$\hat{\nabla}$: h に対する Levi-Civita 接続

$C := \nabla - \hat{\nabla}$: 差テンソル

$T := \frac{1}{n} \text{tr}_h C$: Tchebychev ベクトル場

$\mathcal{T} := \hat{\nabla} T$: Tchebychev 作用素

中心アファイン微分幾何と余等質性 1 の中心アファイン曲面

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

中心アファイン微分幾何: アファイン空間内の部分多様体の
中心アファイン変換で不変な性質
を調べる

中心アファイン変換: 原点を固定するアファイン変換

↓

\mathbb{R}^n の中心アファイン変換群 $\cong GL(n, \mathbb{R})$

余等質性 1 の中心アファイン曲面は

$$f(x, y) = \gamma(x)e^{yA}$$

と表される
ただし

$\gamma: \mathbb{R}^3$ 内の曲線, $A \in \mathfrak{gl}(3, \mathbb{R})$

例 1

原点を中心とする平坦な固有アファイン球面

例 (原点を中心とする平坦な固有アファイン球面)

$f = (X, Y, Z) : M^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$: 原点を中心とする平坦な固有アファイン球面

\implies 中心アファイン合同を除いて

$$XYZ = 1 \quad \text{または} \quad (X^2 + Y^2)Z = 1$$

(cf. 1990 Magid-Ryan)

これらは余等質性 1

例えば前者については

$$\gamma(x) = (e^x, 1, e^{-x}), \quad A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

上の曲面は次の例に含まれる

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

例 2

Tchebychev 作用素が消える平坦な非退化中心アファイン曲面

定理 (1995 Liu-Wang)

$f = (X, Y, Z) : M^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$: 平坦な非退化中心アファイン曲面
Tchebychev 作用素 = 0

$\implies f$ は次の何れかと中心アファイン合同

(1) $X^p Y^q Z^r = 1$ ($p, q, r \in \mathbb{R}$ s.t. $pqr(p+q+r) \neq 0$)

(2) $\left\{ \exp\left(-p \tan^{-1} \frac{X}{Y}\right) \right\} (X^2 + Y^2)^q Z^r = 1$
($p, q, r \in \mathbb{R}$ s.t. $r(2q+r)(p^2+q^2) \neq 0$)

(3) $Z = -X(p \log X + q \log Y)$ ($p, q \in \mathbb{R}$ s.t. $q(p+q) \neq 0$)

(4) $Z = \pm X \log X + \frac{Y^2}{X}$

(5) $f = (e^x, \psi_1(x)e^y, \psi_2(x)e^y)$, ψ_1, ψ_2 は x の任意関数 $\lambda = \lambda(x)$ に対する微分方程式 $\psi'' - \psi' - \lambda\psi = 0$ の 1 次独立解

上の曲面はすべて余等質性 1

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

標準形

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

簡単のため不定値な場合を考える
(Euclid Gauss 曲率が負)

補題

$f: M^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$: 不定値中心アファイン曲面
余等質性1

$\implies f$ は

$$f(u, v) = \gamma(u + v)e^{(u-v)A} = \gamma(s)e^{tA}$$

と表すことができる (標準形)
ただし

(u, v) : 漸近線座標, $\gamma: \mathbb{R}^3$ 内の曲線 (標準母線),

$$A \in \mathfrak{gl}(3, \mathbb{R}), \quad s = u + v, \quad t = u - v$$

記号の準備

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容
序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

$f : M^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$: 不定値中心アファイン曲面

(u, v) : 漸近線座標

$\varphi := h(\partial_u, \partial_v)$

d : 原点からの Euclid 支持関数

$$\rho := -\frac{1}{4} \log \left(-\frac{K}{d^4} \right)$$

($= \log(\pm r)$) (r : 原点からの等積アファイン支持関数)

$$a := \varphi \det \begin{pmatrix} f \\ f_u \\ f_{uu} \end{pmatrix} / \det \begin{pmatrix} f \\ f_u \\ f_v \end{pmatrix}$$

$$b := \varphi \det \begin{pmatrix} f \\ f_v \\ f_{vv} \end{pmatrix} / \det \begin{pmatrix} f \\ f_v \\ f_u \end{pmatrix}$$

標準形に対する Gauss の公式

その 1

$f : M^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$: 不定値中心アファイン曲面
余等質性 1
標準形で表しておく

\implies Gauss の公式:

$$\begin{cases} f_{uu} = \left(\frac{\varphi'}{\varphi} + \alpha' + \frac{1}{2} C_1 \right) f_u + \frac{a}{\varphi} f_v \\ f_{vv} = \left(\frac{\varphi'}{\varphi} + \alpha' - \frac{1}{2} C_1 \right) f_v + \frac{b}{\varphi} f_u \\ f_{uv} = -\varphi f + \left(\alpha' - \frac{1}{2} C_1 \right) f_u + \left(\alpha' + \frac{1}{2} C_1 \right) f_v \end{cases}$$

ただし

$$\varphi, \alpha, a, b: s \text{ の関数, } \rho = \alpha(s) + \frac{C_1}{2} t, \quad C_1 = \text{tr } A$$

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

標準形に対する積分可能条件

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

標準形に対する Gauss の公式の積分可能条件:

$$\begin{cases} \left(\frac{\varphi'}{\varphi}\right)' = -\varphi - \frac{ab}{\varphi^2} + (\alpha')^2 - \frac{1}{4}C_1^2 \\ a' + \left(\alpha' + \frac{1}{2}C_1\right)\varphi' = \alpha''\varphi \\ b' + \left(\alpha' - \frac{1}{2}C_1\right)\varphi' = \alpha''\varphi \end{cases}$$

第2式, 第3式より $\exists p = p(s), \exists C_2 \in \mathbb{R}$ s.t.

$$p' = \alpha''\varphi - \alpha'\varphi', \quad a = -\frac{1}{2}C_1\varphi + p, \quad b = \frac{1}{2}C_1\varphi + p - C_2$$

更に

$$\varphi'' = \frac{(\varphi')^2}{\varphi} - \varphi^2 + \frac{-p^2 + C_2p}{\varphi} - \frac{1}{2}C_1C_2 + (\alpha')^2\varphi$$

標準形に対する Gauss の公式

その2

Gauss の公式は次と同値

$$\begin{cases} (2\varphi' - 2\alpha'\varphi + 2p - C_2)\gamma' \\ \quad = \gamma \{4\varphi A^2 + (-4C_1\varphi + C_2)A - 2\varphi^2 E\} \\ \gamma'(4\varphi A - C_2 E) = (2\varphi' + 2\alpha'\varphi - 2p + C_2)\gamma A \\ 4\gamma'' = \frac{2\varphi' + 6\alpha'\varphi + 2p - C_2}{\varphi}\gamma' - \gamma \frac{C_2 A + 2\varphi^2 E}{\varphi} \end{cases} \quad (*)$$

f の中心アファイン性より

$$\det \begin{pmatrix} \gamma \\ \gamma A \\ \gamma' \end{pmatrix} \neq 0$$

更に

$$8A^3 - 8C_1 A^2 + C_3 A + C_2 E = 0$$

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

標準形に対する Gauss の公式

その3

ただし

$$C_3 = -4\varphi + \frac{2C_1 C_2}{\varphi} - \frac{C_2^2}{2\varphi^2} - 2 \left(\frac{\varphi'}{\varphi} \right)^2 + \frac{(2\alpha'\varphi - 2p + C_2)^2}{2\varphi^2} \in \mathbb{R}$$

(*) 第1式左辺の γ' の係数

$$2\varphi' - 2\alpha'\varphi + 2p - C_2$$

に注目する

- 係数が0の場合: γ は平面曲線を用いて表すことができる
- 係数が0とならない場合: (*) 第1式から残りの式が得られる
また

$$\det \begin{pmatrix} \gamma \\ \gamma A \\ \gamma A^2 \end{pmatrix} \neq 0$$

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

特別な場合

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

命題

$f : M^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$: 不定値中心アファイン曲面
余等質性1
標準形で表しておく

(1) $C_1 = C_2 = 0$

\implies 次のように表される等積アファイン回転面と中心アファイン合同

$$f(x, y) = \begin{cases} (\mu(x) \cos y, \mu(x) \sin y, x) \\ (\mu(x) \cosh y, \mu(x) \sinh y, x) \\ (x, xy, \frac{1}{2}xy^2 + \mu(x)) \end{cases}$$

(2) f : 原点を中心とする固有アファイン球面

$\iff C_1 = 0, \alpha$: 定数

(3) f : 中心アファイン極小曲面 $\iff \alpha$: 1次式

平坦ではない固有アファイン球面の場合

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容
序

アファイン超
曲面

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

定理 (2019 F.-Furuhata)

$f : M^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$: 原点を中心とする平坦ではない不定値固有
アファイン球面
余等質性 1

\implies 標準形における γ, A は次のようにあたえられる

○ A の最小多項式は $t^3 - \frac{c}{4}t + \frac{a-b}{8}$ ($a, b, c \in \mathbb{R}$)

○ γ は常微分方程式

$$(2\varphi' + a + b)\gamma' = \gamma\{4\varphi A^2 + (a - b)A - 2\varphi^2 E\}$$

の解

ただし $\varphi \neq 0, \varphi' \neq 0, -\frac{a+b}{2}$ で

$$(\varphi')^2 = -2\varphi^3 + c\varphi^2 + ab$$

定曲率中心アファイン極小曲面の場合

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

定理 (2019 F.-Furuhata)

$f : M^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$: 中心アファイン極小曲面
余等質性1

$\kappa :=$ 中心アファイン計量の曲率: 一定

$\implies \kappa = 0, 1$

3つの場合に分けることができる
すべて具体的に表すことができる

- $\kappa = 0, \mathcal{T} = 0$ (cf. 1995 Liu-Wang)
- $\kappa = 1$ かつ線織面 (cf. 2009 F: 余等質性の仮定なし)
または楕円面の一部 (定値)
- $\kappa = 1$ で上以外のもの (cf. 2006 F: 特別な場合)

線形代数に関する命題

余等質性1の
中心アフィン
曲面と
簡約化された
中心アフィン
曲線

藤岡敦

内容

序

アフィン超
曲面

余等質性1の
中心アフィン
曲面

簡約化された
中心アフィン
曲線

命題

$A \in \mathfrak{gl}(n, \mathbb{R})$
 $\exists v \in \mathbb{R}^n$ s.t.

$$\det \begin{pmatrix} v \\ vA \\ \vdots \\ vA^{n-1} \end{pmatrix} \neq 0 \quad (**)$$

\Updownarrow

A の最小多項式の次数は n

証明

\Downarrow : 対偶を示す

\Uparrow : \mathbb{C}^n を A の広義固有空間の直和として表す

簡約化された中心アファイン曲線の定義

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

M_n : 最小多項式の次数が n の $\mathfrak{gl}(n, \mathbb{R})$ の元全体
 $A \in M_n$: 固定

$$V_A := \{v \in \mathbb{R}^n \mid v \text{ は } (**) \text{ をみたす}\}$$

定義

$\gamma: I \rightarrow \mathbb{R}^n$: 曲線

γ : A に付随する簡約化された中心アファイン曲線

\Updownarrow def.

$$\forall t \in I, \gamma(t) \in V_A$$

正則な曲線を考える: $\forall t \in I, \gamma'(t) \neq 0$

曲率

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

$\gamma : I \rightarrow \mathbb{R}^n$: $A \in M_n$ に付随する簡約化された正則中心
アファイン曲線

必要ならば変数変換を行うことにより

$\exists \kappa = (\kappa_1, \kappa_2, \dots, \kappa_n) : I \rightarrow S^{n-1}$ (単位球面) s.t.

$$\gamma' = \gamma(\kappa_1 E + \kappa_2 A + \dots + \kappa_n A^{n-1}) \quad (\text{正規化})$$

κ を曲率という

γ は曲率の積分を用いて具体的に表すことができる

$C_{GL(n, \mathbb{R})}(A)$: A と可換な元からなる $GL(n, \mathbb{R})$ の部分群

$$C_{GL(n, \mathbb{R})}(A) = \{P \in GL(n, \mathbb{R}) \mid AP = PA\}$$

$$P \in C_{GL(n, \mathbb{R})}(A)$$

$\implies \gamma P$: γ と同じ曲率をもつ

曲率が大円に値をとる場合

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

定理 (2025 F.-Furuhata)

$\gamma : I \rightarrow \mathbb{R}^n$: 簡約化された中心アファイン曲線
曲率が大円に値をとる

$\implies \gamma$ はある等質中心アファイン超曲面に含まれる

証明

$\kappa = (\kappa_1, \kappa_2, \dots, \kappa_n) : I \rightarrow S^{n-1}$: γ の曲率

仮定より $\exists (a_1, a_2, \dots, a_n) \in \mathbb{R}^n \setminus \{0\}$ s.t. $\sum_{i=1}^n a_i \kappa_i = 0$

$$\mathfrak{g} := \left\{ \sum_{i=1}^n x_i A^{i-1} \mid x_1, x_2, \dots, x_n \in \mathbb{R}, \sum_{i=1}^n a_i x_i = 0 \right\}$$

等質中心アファイン超曲面は $\{v \exp X \mid X \in \mathfrak{g}\}$ ($v \in V_A$)
としてあたえられる

平面曲線の場合

余等質性1の
中心アファイン
ン曲面と
簡約化された
中心アファイン
ン曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
ン曲面

簡約化された
中心アファイン
ン曲線

定理 (2025 F.-Furuhata)

$\gamma: I \rightarrow \mathbb{R}^2$: 簡約化された中心アファイン曲線
曲率が一定

$\implies \gamma$ は次の等質中心アファイン曲線と中心アファイン合同な
曲線に含まれる

$$(1) x^k y^l = 1$$

$$(2) (x^2 + y^2)^{\frac{k}{2}} \exp\left(l \tan^{-1} \frac{x}{y}\right) = 1$$

$$(3) k \log y + l \frac{x}{y} = 0$$

ただし $(k, l) \in \mathbb{R}^2 \setminus \{0\}$

標準母線の場合

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性 1 の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

γ : 余等質性 1 の中心アファイン曲面に対する標準母線
一般には γ は簡約化された中心アファイン曲線
曲率は次のいずれかに値をとる

(1) 大円

(2) 楕円錐と球面の共通部分

(1) の場合: γ は原点を通る平面に含まれる

(2) の場合: 曲率が円錐と球面の共通部分に値をとる場合は
更に計算可能

曲率は小円に値をとる

γ は曲率が小円に値をとる曲線を変形すること
により得られる

余等質性1の
中心アファイン
曲面と
簡約化された
中心アファイン
曲線

藤岡敦

内容

序

アファイン超
曲面

余等質性1の
中心アファイン
曲面

簡約化された
中心アファイン
曲線

ご清聴ありがとうございました